

第 35 回日中学生会議関西報告会出席報告

見本重宏

報告会は、10月15日近畿大学で開催し、ご案内を受け初めて出席しました。発表内容は約2週間中国各都市を回り生活を共にしながら非常に真面目なテーマ（下記概要参照）に沿って議論され整理報告されていた。議論内容と共に、一緒に生活することで、考え方の共通項と違いも含め相互理解が深まり、日中同世代間の友情の輪が広まったと考える。

日中学生会議は、外務省、日本外交学会、中国政府等各界の支援を受け1987年北京で第1回を開催し、当初は年2回（中国・日本）で開催していたが、現在1回/年交互で行い35回目となる。参加者が決まった段階で、日中双方でテーマを決めグループ分けを行い、各グループで資料集め勉強会（スカイプ等使用）、合宿等で入念な事前準備を行っているのが特徴と思う。双方学生が合流後共同生活・討論・観光等楽しみながら議論を進め、最終的に課題毎の成果発表をしている。現在、日中間の国民感情改善が望まれる中、直接日中学生が共同生活や課題ごとに議論を戦わせる中で相互理解を深める機会を持つことは、世代間交流、子々孫々の友好を継続する為には必要不可欠と考える。

このような交流実態を知ることにより、今後の活動の幅が広がったと思います。今回の成果報告会に、当会の紹介文や会報「翼よよみがえれ」を持参し、会議代表者に贈呈し今後情報交換を行って行こうと約束しました。因みに、第36回開催の実行委員長王航洋君は、東京大学1回生で日本生まれ日本育ち、日中友好に少しでも役立ちたいとの思いが強い好青年です。

第 35 回学生会議概要

実行委員会スローガン：「百聞を論じ、一見して気付く夏～個から広がる相互理解の輪～」

第 35 回参加者：日本 31 名、中国 28 名、 資格：大学生、院短期専門、高校生(条件付き)

訪問先：北京、上海、広州 3 都市 17 日間

使用言語：日本語、中国語、英語

分科会 6 テーマ

- ① 経済と社会構造 ② 文化の影響と運用可能性 ③ 格差とマイノリティ
- ④ 安全保障と平和共存 ⑤ 歴史背景と価値観の相違 ⑥ 持続可能な開発と環境保全

